

大学院研究室だより

平成17年度修士論文題目と執筆者氏名

英語学専攻

“An Evaluation of Three Current Syllabuses from the Perspective of Listening”
.....森 真理子*

日本語学専攻

“中国語を母語とする日本語学習者の読解ストラテジーについて”.....張 舒婷

“「ダス」をV2とする複合動詞の解釈の決定要因”.....服部 葉子

“韓国人日本語学習者における語彙習得
—母語と意味的対応のある動詞について—”.....李 榮

“擬音語・擬態語の習得における音韻・形態規則に関する指導の効果
—中・上級の日本語学習者を対象として—”.....佐藤 敏洋

“日本語学習者の講義内容理解におけるノートテイキングの効果”..渡辺 予里

“日本語学習者のテキスト理解における未知語の意味推測
—言語習熟度と母語背景によるストラテジー使用への影響—”.....山方 純子

“日本語・韓国語における複合語形成について”.....金 明信*

(*...修士研究報告)

言語科学研究第12号（2006年）

「言語科学研究センター」(Center for Language Sciences : CLS)

平成17年度は、以下の言語学および言語教育学に関する研究会を開催した。言語学研究においては、コロキウムだけでなく、テーマを絞ったワークショップを2つ行った。特に、2月のワークショップは、規模を大きくし、研究発表者18名を迎え、会場も参加者の利便性を考慮し、JR神田駅近くにある神田外語グループの神田外語学院の講堂で行った。今後も、同様のワークショップを開催する予定である。また、平成16年度に続き、早期英語に関するコロキウムを2回開催したが、これは、日本学術振興会科学研究費の補助金（基盤研究(B)）による小林美代子助教授を研究代表者とする3年間の『早期英語教育の指導者養成及び研修の実態と将来像に関する総合的研究』（研究分担者：長谷川信子、堀場裕紀江、他）と連携したものである。CLSでは、この小林教授のプロジェクトに加え、平成16年12月から5年間の予定で発足した、科学技術振興事業(JST)社会技術研究事業の公募型研究領域<脳科学と教育II>による、他大学との合同研究プロジェクト『言語の発達・脳の成長・言語教育に関する統合的研究』（研究リーダー：萩原裕子、首都大学東京）のサブ領域「言語能力検査・評価」研究（研究機関代表者：長谷川信子／研究分担者：井上和子、小林美代子、堀場裕紀江）を担当しており、早期英語研究に理論と実践の両面から研究を遂行している。

CLSではさらに、上記研究に加え、3年目を迎えた学術振興会科学研究費助成金による言語調査に関する研究『静岡県下「言語の島」における言語変容に関する基礎的研究』（研究代表者：木川行央教授）など、大学院での研究全般を支援している。こうした研究の成果は、年度末に刊行される研究報告書だけでなく、CLSの研究紀要 *Scientific Approaches to Language* (SAL) にも掲載されているが、17年度末に刊行予定のSAL第5号は、2月のワークショップ『日本語の主文現象と統語理論』の特集号となる予定である。SAL掲載論文およびコロキウムやワークショップなど、CLSのより詳しい活動内容はCLSのホームページ<<http://cls.kuis.ac.jp>>に掲載されている。

平成17年度 言語科学研究センター 研究会

<コロキウム>

日 時：2005年4月18日（月）

講演者：黒田成幸氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校 名誉教授）

演 題：日本語上代語の構文法について

<言語学ワークショップー1> 『日本語の主語の位置について』

日 時：2005年6月25日（土）

研究発表：

上田由紀子 氏（神田外語大学言語科学研究センター 非常勤研究員）

Ga-marked Subjects as a Member of CP-phases

藤巻一真 氏（神田外語大学言語科学研究センター 非常勤研究員）

On the Position of Nominative NPs in Japanese: The Possibility of
Nominative NPs in-Situ

コメント：宮川繁 氏（マサチューセッツ工科大学言語哲学科 教授）

<言語学ワークショップー2> 『日本語の主文現象と統語理論』

日 時：2006年2月11日（土）・12日（日）

会 場：神田外語学院 本館 7階 講堂

プログラム：

2月11日（土）

- 10:00-10:15 Opening <本ワークショップの趣旨>（長谷川信子）
10:15-11:00 条件節と主文のモダリティ（井上和子：神田外語大学）
11:00-11:45 取り立て助詞とモダリティについて（伊藤健人：群馬県立女子大学）
11:45-12:45 とりたて詞をめぐる節周辺要素と従属化（佐野まさき：立命館大学）
12:45- 2:00 <昼食>
2:00- 2:45 命令・祈願・感嘆表現の統語構造をめぐる（内堀朝子：日本大学）
2:45- 3:30 Japanese as a Topic Movement Language（岸本秀樹：神戸大学）
3:30- 3:45 <休憩>
3:45- 4:30 日本語の疑問表現と統語構造（三宅知宏：鶴見大学）
4:30- 5:15 Where Thetic/Categorical Distinction Meets Grammar
（上山あゆみ：九州大学）

2月12日（日）

- 10:00-10:45 1人称の省略：モダリティと授与構文（長谷川信子：神田外語大学）
10:45-11:15 日本語の主語の人称制限（外崎淑子：東海大学）
11:15-11:45 軽動詞と人称一致（上田由紀子：神田外語大学 CLS）
11:45-12:30 軽動詞・軽名詞と敬語表現の構造（イヴァナ・アドリアン & 酒井弘：広島大学）
12:30- 1:30 <昼食>

言語科学研究第12号（2006年）

- 1:30－ 2:15 古代語の能格性について（柳田優子：筑波大学）
2:15－ 3:00 熊本八代方言から日本語をみる：終助辞「イ」と補文標識「ト」
をめぐって（吉村紀子：静岡県立大学）
3:00－ 3:45 現代共通語の格助詞分布制約の起源について（金水敏：大阪大学）
3:45－ 4:00 <休憩>
4:00－ 4:45 日本語の右方転移文の構造について：左方移動分析の観点から
（黒木暁人：東北大学大学院）
4:45－ 5:15 慣用句における右方転移（藤巻一真：神田外語大学 CLS）
5:15－ 5:45 日本語の後置文：左方移動文との相違（綿貫啓子：神田外語
大学 CLS；シャープ（株））
5:45－ 6:00 Closing（井上和子）

<第2回早期英語教育コロキウム>

『「誰が教える？」小学校英語指導者に求められる資質と研修』

2005年5月21日（土）

講演者：バトラー後藤裕子氏（ペンシルバニア大学 教育学大学院教育言語
学部 准教授）

スタン・ピダーソン氏（千代田区教育委員会 国際理解教育 講師／
恵泉女子大学 非常勤講師／神田外語大学 非常勤講師）

<第3回早期英語教育コロキウム>

2005年9月17日（土）

講師：Shelagh Rixon氏（ウォーリック大学英語教師教育センター 上級講
師）

演題：子どもにやさしい英語教育をめざして

後援：ブリティッシュ・カウンシル／ケンブリッジ ESOL